

【臨床・研究】

大田市におけるスギ花粉飛散と気象状況との関連
～最近約10年間の変化～わ だ まさ ひろ
和 田 昌 弘

キーワード：スギ・ヒノキ花粉症，花粉飛散予測，気象条件，温暖化

要 旨

最近の疫学調査では全国的にアレルギー性鼻炎，特にスギ花粉症の有病率が増加していることがわかっている。当院では開業以来約20年間，1月～5月にかけてスギとヒノキ花粉を測定し，ホームページやSNSで公開することにより花粉からの回避と早期治療をよびかけてきた。大田市の場合スギ花粉の飛散予測は前年7月の気象条件と強く相関しており，それによって予測可能であったが，最近の約10年間は予測が当たらなくなった。そこで気象条件の変化や予測に用いる因子などを再検討した。この約10年の花粉飛散総数は，前年7月の気象条件とではなく6月や8月の気象条件と相関するようになっていた。花粉飛散開始もやや早めになっていた。気象の変化を把握することで予測の方法を変え，患者さんの症状を少しでも軽減することに役立たせることが必要であると考えられた。

はじめに

2019年に行われた耳鼻咽喉科医師，およびその家族を対象にしたアンケートによる疫学調査では，アレルギー性鼻炎の有病率は全国で49.2%，島根県では38.6%であり，以前の調査に比較して全国的に増加傾向にあることが示された。このうちスギ花粉症が全国では38.8%，島根県では29.3%であった。全国的には低年齢化も顕著に認められている¹⁾。花粉症の原因はさまざまであるが，多く

はスギ，ヒノキの花粉である。

当院では約20年前の開業当初からスギとヒノキの花粉飛散数を測定し，院内掲示，および当院ホームページやSNSを利用して地域の方々に情報提供を行い注意喚起している。スギ花粉症では花粉飛散前，あるいは初期からの治療開始が効果的であることがわかっており²⁾，診断や投薬する場合もその年の花粉飛散の傾向をある程度知っておくことが重要となってくる。花粉の飛散数を予測する場合，前年夏の日照時間や降水量でその年の花粉飛散数を予測することが可能であるとされ，大田市でもその予測方法があてはまっていた。しかしこの約10年間はその予測が当たらなくなって

Masahiro WADA

わだ耳鼻咽喉科医院

連絡先：〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ200-3

わだ耳鼻咽喉科医院